

第8号  
平成18年4月7日  
発行  
「市民活動情報紙  
なると」編集委員会

# 市民活動 情報紙なると

鳴門市ボランティア  
連絡協議会  
☎ 685-7170  
鳴門市市民活動  
支援センター  
☎ 684-0655



「BANDORoke村～歓喜の郷」の開村セレモニー

映画「バルトの楽園」の撮影が行われた大麻町板東のオープンセット「BANDORoke村～歓喜の郷」の一般公開が始まりました。3月21日の開村セレモニーには、トークショーや獅子舞、もち投げ、クイズ大会、阿波踊りなどの記念イベントが催され、大勢の見物客でにぎわいました。

寄稿

## 鳴門市の未来を担う ネットワークの構築



日本コミュニティワーク研究所  
研究員 岩城貞時

昨年9月30日に開催された「ヤングボランティアの集い」をはじめとして、都合3回の集まりに参画させていただく機会を得ました。これまでの経緯を踏まえ、鳴門市における市民活動のあり方についての展望を記したいと思います。

3回の集いを通じて私が持った感想は、鳴門市における市民活動が実に多彩で活発なものであるということと、若い女性の参画が積極的であるということでした。中山間部における住民活動はややもすれば青年層の参画が得られにくく、壮高齢者層に偏りがちですが、こと鳴門市については今後大いに期待できる環境であることが伺えます。

ただし、危惧されることもあります。それは多様な市民活動の基盤となる視座が共通するベクトルに向いているかということであり、その一つは地域であると考えます。このために必要なことが、活動団体間において互いに不足する要素を補い合うメリットを持つためのネッ

トワークの構築であります。

各団体で推進する通常の活動メリットに加え、ネットワーク参画団体が持つ他のメリットが自身の団体に付加されれば、団体の価値も高まり、さらに活動は磐石なものとして機能することが期待できます。

これは地域福祉で求められる住民同士の相互扶助の推進をはかることと同じです。各々の活動団体が一住民と捉えたと、一人だけでは十分な生活が送れないため近隣の住民間で少しづつ支えあうシステムの構築が求められていることを団体ネットワークに置き換えると理解できることではないでしょうか。

もちろんネットワークをつくることだけでは意義を果たせません。今後さらに議論を重ね、お互いのメリ



ットや有用性を抽出し、継続的な活動を展開することによって新たなコミュニティ形成が推進されることを期するものであります。

そうした取り組みが、薄れかけている地域における信頼関係を再構築する基礎となり、少しずつ広がりを見せていく中で「見守り活動」などお互い様の近隣ネットワークを生み出す架け橋になるものと信じています。

熱気あふれる

## 市民活動交流研修会



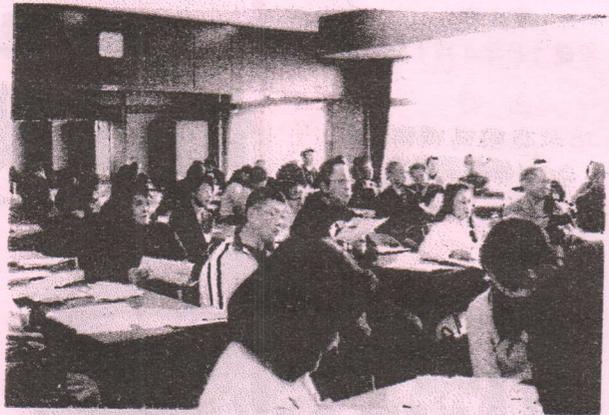
支援センター 福田健一

鳴門市の社会貢献団体が一堂に会して交流と研修を行う第4回鳴門市市民活動交流研修会が2月11日、大麻町大谷の堀江公民館で開催されました。

今回は「福祉」をテーマとして、地区自治振興会 8、NPO法人 11、ボランティア団体 9、その他行政関係者など約 120 人が参加し過去最高の交流研修会となりました。特に今回は自治振興会から大勢の参加があったことに意義がありました。

研修会は三団体の活動発表、障害者自立支援法や指定管理者制度についての講義、支援センターからの報告など開会（午前 10 時）から閉会（午後 4 時）までぎっしり詰まったプログラム（下記）で会場は熱気に包まれました。大規模で内容の充実した交流研修会となりました。

- \* 団体活動報告（コスモスはうす、はみがき Eid）
- \* 障害者自立支援法（井川史枝氏）
- \* 指定管理者制度（板井義典氏）



発表に聞き入る交流研修会参加者のみなさん

- \* 鳴門市社会貢献団体の連携について
- \* 支援センターの現況報告
- \* 団体活動報告（JCI テレワークス・ネットワーク）
- \* JCI 鳴門UPセンターの活動見学

市外からの参加者からも「こんなに市民活動が豊かで活発なのは鳴門市だけです」とのお言葉をいただき、各活動団体にとって面目躍如たるものがありました。

なお本会の担当団体である「JCI テレワークス・ネットワーク」の心のこもったもてなしには本当に感動しました。「JCI」会員のみなさん、ありがとうございました。

### 真のリゾート“鳴門”を創るために



NPO法人認証準備中  
OH! なんと  
代表 神田真奈美

美しい海、きれいな空気、いつもそこにある絶景、豊かな海の幸、鳴門金時やレンコンなどの農産物…鳴門は大阪、神戸からマイカー・高速バスで1,2時間というリゾート・観光地。

しかし現実には駅前にレンタサイクルもなく、他の観光地で見かけるボランティアガイドもありません。京阪神には「鳴門→渦潮 徳島→阿波踊り」という単一的なものでしかなく、鳴門の多彩な魅力をほとんどPRできていません。

また旅の情報番組で紹介されるのはほんの一部。それも実際には一般旅行者には、実現不可能な情報が多く、一過性のものです。京阪神から身近な観光ポイントとしては、淡路島に人気を奪われており、高松や高知へのただの通過点となっています。健康で明るく、自然とのふれあいがいっぱいあって「いつ来てもいいところですね。また来るよ!」とってもらえるリ

ゾートを獲得できる魅力ある真のリゾート“鳴門”を創るためにはどうすればいいか？それにはまず鳴門の市民が郷土の自然についてプライドを持ち、心も体も健康でオープンでなくてはいけない。そうだ、本当の鳴門の市民を健康にして、鳴門の素晴らしさを県外に知ってもらえるNPOを創ろう!と考えました。

鳴門で既にアウトドアスポーツ、健康スポーツを日常に取り入れている私たちのこれまでの自己体験、経験をベースに、新しい鳴門の付加価値を提供できるサービスやホスピタリティ、PR事業、そのほかを積極的に提案・実行していきます。

そして鳴門市の財政に鑑み、既にある施設を活用し、「やったらできた」の気持ちを市民一人ひとりに根付かせ、鳴門を魅力ある市に再生したいと思います。流行や一過的なイベントだけでなく、サイドシーンを含めた観光&健康への日常かつ具体的な取り組みを提案、実行するため、また鳴門市および公的関係各所に協力を要請するにあたり、法人格を取ることが必要と考え準備にかかりました。

私たちの趣旨にご賛同いただける方はメール  
ください。NPOサイトを下記に掲げています。

<http://www.geocities.jp/manaminloveride/npo>

## 桑島地区自治振興会の(春)(夏)(秋)(冬)



桑島地区自治振興会  
会長 天羽良彦

●春は各地から桜の開花の便りが聞こえて  
きます。昔は桃の節句には、子供たちが手に手  
に遊山箱を抱え野山に、また親子連れでの桜見  
物が思い起こされます。最近この遊山箱が見直  
されているやに新聞紙上で報道されています。

このような情景を思い浮かべながら、桑島の  
与三左谷公園の復活・有効活用の提案により、  
まずは手始めに桜の植樹を行いました。今後引  
き続き植樹を行い、桑島の桜の名所に育て、地  
域住民の憩いの場、安らぎの場を提供したいと  
願っております。

●桑島地区には数箇所の公園があり、ご多分  
に漏れずポイ捨てが多く、犬のフン害にも悩ま  
されている現状です。そこで立て看板を多数設  
置するとともに、桑島の玄関口の公園には一部  
にネットを張り、不法投棄の防止とモラルの向  
上に努めております。

●毎年末には民生委員による一人暮らしの  
老人の慰問があります。お土産に桑島会(ボラ  
ンティア団体)によりお餅を持参して喜ばれて  
います。(餅つき費用は自治振興会が一部助成)

●桑島地区交流グラウンド・ゴルフ大会  
「手軽に、いつでも、どこでも仲間と楽しくで  
きるスポーツ」、これがゴルフです。一般のゴ  
ルフと同様にボールをクラブで打ち、ホールポ  
ストへホールインするまでの打数を競います。  
毎年1回地域住民の交流をはかることを目的  
に、桑島自治振興会主催で開催しております。

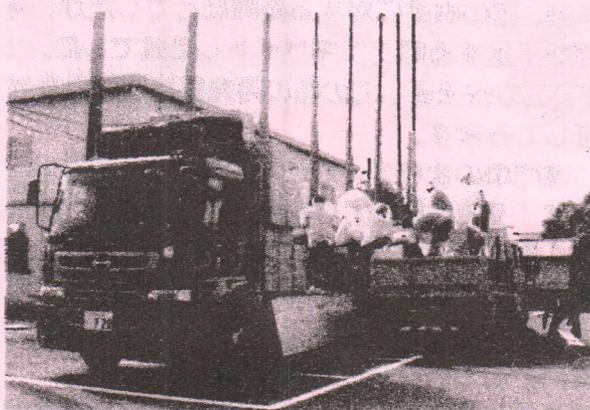


お餅つきをする桑島地区自治振興会のみなさん

## 将来世代を思いやる心

未来の子どもを守る会  
川村俊子

「青く美しく生き続けている星、地球」「先人  
から受け継いだ地球」をそのまま次の世代に、  
未来の子どもたちに送りたいとの思いで「未来  
の子どもを守る会」を発足させました。活動を  
進めるにあたり「こんな場所がほしいなあ」と  
の思いで生まれたのが「優元快舎とこちゃんK  
U」です。優しさの中で元気になり快くおられ  
る学び舎、とこちゃんのお家という意味です。



ゴミ減らし隊の雑古紙変身術の活動風景

「とこちゃんKU」では環境の恵みを守り、  
将来世代を思いやる心を育み、心豊かに、心の  
健康と地球の健康を大切にしたい暮らしの工夫  
を語り合い、学び、人・物・知恵・情報・ノウ  
ハウ(知識・技術)などの地域資源ネットワー  
クづくりをしながら「ごみ分別しま専科」「地  
球をいたわる生活渦巻きま専科」「ごみ減らし  
隊の雑古紙変身術」「CO<sub>2</sub>CO<sub>2</sub>減らし隊」と  
ネーミングもユニークな自由な考え、自由な発  
想で活動しています。

雑古紙変身術では、資源回収されていない紙  
類(現在燃やされている紙ごみ)を集め15t  
トラックを一杯にし、それを障害者施設でトイ  
レットペーパーにリサイクルさせ、そのペー  
パーの消費(福祉に貢献・グリーンコンシューマ  
ー)を、市民・施設・企業・行政が思いやりと  
力を持ち寄り開催しています。「本当にごみが  
減るなあ」とマテリアルリサイクルの輪が広が  
っています。

また、心が疲れてちょっと休みたい、乾いた  
心にちょっと潤いがほしい、話がしたい、何か  
を始めたい、集めたい、などの望みをふれあい  
の中で可能にし、お互いの心に栄養が与えられ  
る話・和・輪を広げています。

## ヤングボランティアの集いに参加し?

NPO法人ハーモニー「人・豊かな街づくり」  
原内日出美

鳴門市市民活動支援センター主催による「ヤングボランティアの集い」は、ネットワークづくり及び人材育成を目的として開催され、第1回から第3回までの短い期間でしたが、その趣旨に賛同して参加しました。個人や団体活動について本音で語れる会として活発に意見交換がなされ、刺激的な時間を過ごしました

内容は主に活動上の問題点や鳴門市の支援体制、国の制度に対する疑問などでしたが、時間が不足するほどエキサイトした会でした。以下、この会を通しての私の再発見や問題点を検証してみます。

鳴門市のまちづくりの基本理念は「交流と協創」「市民が等しく生活の多様な選択肢を享受でき…」となっています。

そして「ヤングボランティアの集い」こそこれらを実現する場

であると思っておりましたが、私が受けた実質的なことと鳴門市の理念の間には残念ながら大きなズレを感じました。

問題点は、次世代育成について鳴門市自体が具体的なビジョンを開示していないため、次世代の若い人たちは社会の中で「宙ぶらりん」の状態に置かれていることです。次世代の社会貢献に対する理解不足や機会の動機づけがないということの背景をもっと真剣に検証しなければ、市民活動はこれ以上発展性のないものになってしまいます。「まちづくり」に皆が喜んで参加できるよう行政の積極的な支援とその時代にあった対応が必要であると思います。

今後の「ヤングボランティアの集い」は「鳴門市と共に考える場づくり」をキーワードとして、疑問解消、ヒントや助言、ネットワーク化、実践的育成に関するカリキュラムの具体化などができる場になってほしいと思います。コミュニケーションやネットワーク化はすぐに実施できるものではありません。個人や団体の得意分野を生かしたり、問題点を発展的に考えるには時間がかかります。

しかし若い世代にはパワーがあり、行動力があります。次世代の育成についてももっと支援体制を強化してほしいと思います。それらの人たちがそれぞれの地域に帰って貢献すれ



ば、鳴門市は他に例を見ない素晴らしいまちづくりを実現できるでしょう。



ヤングボランティアの集いで熱心に討論する参加者

## 新法人紹介

今年新しく鳴門市に二つのNPO法人が誕生しました。これで当市のNPO法人は17団体となります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

### 【徳島県マスターズ水泳協会】

事務所 鳴門市撫養町斎田字西発 71-1  
理事長 宮西孝典  
分野 保健・福祉、社会教育、子どもの健全育成、文化・スポーツ  
事業 ① マスターズ競技の支援

- ② 高齢者の健康保持の指導
- ③ 子育て支援スポーツ教室
- ④ 体育施設の管理運営

### 【あたたかい手コラボ】

事務所 鳴門市鳴門町土佐泊浦字土佐泊 123 番地  
理事長 斉藤あや子  
分野 保健・福祉、社会教育  
事業 ① 手話ボランティアの養成・派遣  
② 手話講習会  
③ 聴覚障害者の学習・生活相談  
④ 手話通訳の設置

## あとがき

市民活動支援センターが発足して1年が経ちました。最近では常連客も増えて大勢の人が訪れるようになりました。支援センターの機能としては不足する点が多々ありますが、できるかぎり充実に努めていきたいと思ひます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。